

て至矣松永うきる馬よわたりてさるまき
例せられたるまゝの弓手に飛下して是れ余と
はぬと云ふ

東川善山傳書曰竹林流の伝を承りて松永の
頃傳習せし目録録傳(傳)范次と云人まは人
射射よをて傳習人安松左近善次と傳習お
續と干付松永永次も也そ子安松新三郎
往々傳弓削甚なる(正)次と云人射道兼附屬
とそ子弓削強の島お續と録亦多て傳授人
なりこれ依て弓書三傳の社中若て

右雲竹林如成之傳の社の爰忠と傳りて
削り書とて又そ射傳と中興と弓道の
名近より或説竹林の吉田家の新記傳也
て吉田射傳と安竹林流と稱ふと云ふ
いぬ
是日竹林吉田家の新記傳として吉田の射傳と安
竹林の流と稱するなりと云ふこと青山の傳書より傳授
竹林の流と稱するなりと云ふこと吉田家の新記傳と
事按らるる説はわくことと云ふは同一語入道り流りて
一の名人と云ふは古伝と本義賢と傳て國土皆一語の門下なり
竹林流と云ふ射傳と云ふこと一語の門下なり
正次と傳授せらるる吉田の書は八月を大和の月を傳授の月を
たうひるとしては傳授を吉田重信傳は八月を傳授の月を
傳授天下を出るを吉田と云ふは正次傳授の月を傳授の月を
たうひるとしては傳授を吉田と云ふは正次傳授の月を
尾花良野氏門人伝授竹林才子一宮傳

千載小傳卷三

(十一)

波と云者あり此人危別清須藤下事り予郷と
 して清須平吉清と初めとて予郷と予郷人交
 りしに予郷少お忠吉と交りて随波とめされ
 師匠と此約をもちりて随波とせりしに師匠
 の竹林坊としてある坊もなり予郷の住し
 たり近年の昔此のころに予郷の住し
 せは忠吉の別一更小命せられて竹林と自心竹
 林と小懸して清須と事り忠吉と誅しなる
 實よおのて清須平吉清と住して出家人多く竹林
 と師として予郷と誅し一更小命せられて竹林と

危別と死を二男竹林保彦貞次父如成の
 とお續し危別と居る忠吉の忠重保彦と
 師として妙とゆり星野勤なる予郷の住し
 忠重の傳と終り
五日天正の頃一更小命せられて予郷と
 誅しなる予郷人より或田保彦の父
 とも死せり竹林守子の一更小命せられて予郷と誅しなる
 心の清須保彦移りあり予郷と誅しなる予郷人より或田保彦の父
 竹林の清須保彦より予郷と誅しなる予郷人より或田保彦の父
 八年のころあり予郷と誅しなる予郷人より或田保彦の父
 或人曰危林と次重と云射子も竹林保彦貞次
 り守り也紀列の存見忠吉の危林の門と出さ
 つも忠吉の存見忠吉の改じ高島國忠の存見の
 傳と終り忠吉の存見忠吉の改じ高島國忠の存見の

人尾林与流右馬助乃时結了りり以傳り道
悉くお傳りしと云々

田中大心秀次

田中大心秀次者吉田出雲守重高弟子而達射術
居平安城以其藝鳴世稱之太心流

木村壽德

木村壽德者江州堅田人猪飼氏也學射術於吉田
出雲守重綱為精妙其末流多世人稱之壽德流

伴喜元衛門一安

伴喜元衛門一安者從吉田雪荷入道得射妙後改

道雪以其藝鳴雖多從吉田雪荷習弓術者道雪獨
得其宗始居丹後田邊城下仕細川玄吉天正年中
以根矢射通蓮華王院此根矢數之始也至今末流
在諸州稱之道雪流與傳千歲

關六藏一安

關六藏藤原一安者先祖山州山科人也父號四手
野井下野守一安始繼須佐美山城守家而改號須
佐美後又有故號關氏須佐美者江州佐々木家人
而國分城主也一安自幼從伴道雪習弓道道雪遂
以一安為養子授射妙一貫後改一安號正次元和

年中射於蓮華王院通繼縁九間又與白川仁兵衛
青屋權七射於青塚大頭射名承應二壬辰年五月
廿日死享年八十有三法名能譽淨仁

大庭宗重傳事曰初廻遠矢場ハ祇園之南八坂
道京間ニ合テ百八十名同而善塚式百八名也ハ
天下ノ矢而也同而清水或白田孫ニ名也此善塚
トテ初射事天下ノ中此系ノ人又曰家
ニテ若叔又祇園ノ若夫師此子彼系友人ノ若夫
射初テ天下ノ遠矢場トナリ元和ノ終迄四十
年余也今射よりテ矢先一寸是天とありとい

ハる事也此而ハ系ノ系孫也此トテ若夫清水道
と矢と射也ハる事也此ハ清水道也叔又此
前庭清水道と射也ハる事也此ハ清水道也
也早余也ハる清水道と矢と射也ハる人
ナリト由リハ此矢而テ大村子ノ事ハ伴長也
身子實ハ我同身子白川仁兵衛同身子也此
七右ノ若夫ハ善塚也ハる三十名と射也ハる也

片岡平右衛門家次

片岡平右衛門家次者城州山科里安祥寺人也自
幼好弓術從吉田出雲守入道露滴學習年久終得

其精妙關白秀次公自山科被召射術者六人家次
爲其長秀次公廢賞家次之射藝賜俸祿而辭不受
歸山科元和元乙卯年四月十七日五十八歲而死
法名道怡其子平右衛門家延繼其藝之藝得精妙
遠矢到四町五反門身數百人其從遊之盛未有如
此者也高山八右衛門抽於同遊射於蓮華王院大
發弓術之名寬永十四丁丑年五月廿二日家延死
四十八歲法名道慶其子平右衛門家盛繼父祖之
志達弓妙承應元辛卯年及蓮華王院有大故京之
尹少將板倉重宗奉 鈞命有改葺同臘月七日重

宗命家盛使爲射初家盛齋戒而率家族門弟登堂
發白羽二箭其行莊嚴然而見物如堵於此射名發
日域凡從家盛習弓術者若干人可謂盛也寬文十
庚戌年七月十三日五十三歲於安祥寺死法名道
盛其子平右衛門家親又精其藝藝嗚呼數代繼父
祖之志不墜家聲奇哉

行畧家譜曰行畧字右馬の家次老思代山科の
里安祥寺に在りて射藝に遊ぬ事多奉るは
江別より用出雲者入道露備とて射術の名譽
拳世稱之家次を主人とす事と定て云及山

料と括符一家の傳よ小をと替て考経して指導
 と又意新寢食と忘道て字習早業とまぬれ
 一射術均しくして一流の目錄は傳とゆらるは
 練功功跡替て後治の道苑を流此堂とせし
 且を夫と射半に町よむる於是言ふ其意
 一わらるるを感し利不可と授与し秘傳真伝
 と示るるをくまに後教に及出を言ふ死去の内家次
 を呼まよとて曰我子幼稚ありて射術其妙傳
 へらるるを汝よ此道と傳せし事夫のまに我ら
 と傳し給ふぬよわとわらるる我子必長せし汝

道と傳へ射術の道流と傳しわよと志らるは又
 汝ら子孫我子と傳しお興よ極度しそは道
 と天下にわらるるをくまに家次傳と傳し
 師命おこらるるを長子左近衛と傳して流ら
 道の妙術と傳せしむるを言ふと此道とまらるる
 山科来て夙夜よ此道と習熟とて言ふは須実
 白秀次公山科より射とてくまに老去人治よ百
 てよ流あり家次是ら長らるる冥白殿下ま堪
 射と四威あり家次傳祿とて克行るるの勅は各
 宗くと家次傳令とてくまに固持して不仕は年

め十八日て段と季を馬の家延家次り長子也父のま
 跡と嗣て安祥と任と任を云ひくま戒たむ之冠
 と師として射術より月と墨ぬ志いよく切て
 和室大畧といふは次子にり夫とといひる事あり
 といふもあひくく偶武士の家生れけ世業と事と
 といふも何の樂りかきや須臾おこころ事あり天
 質英俊の才きて強弓と響事普通と鐵より
 或射を夫と射る事田町め及よむるも須臾近心
 料より甚是と感し別廢美の不可と事あり
 事家延初稚より世業より身と妻ぬ支才持といふ

とうりみ九藝術の長相兼備せといふは妙如
 よなり難く事と知く壮子の後手迄と若し
 續書と勤め或射のみの禪字よ氣稜として
 奥名と擲り或は徳宗れ智識濁く形密の
 法と為同或は家君れ記録如く往て秘伝也
 直と密て定て射法の一助とせん事と欲と此
 とと程不憚ありいそは洛の鴻儒人見卜画
 と我亭小指と重経賢徳と海なるせしめ申庸
 よむて未究已祭の理と定て射の微妙を兩
 體とくきと是より先父家次存生り射大業の

菅黄門は仕へか忍よる洛^三あるこくに心科^二
 尋^三りおまふ通道の奥候と稱し^一古來乃書
 と換益し^一是どむ南^二と坤^一て目錄可^二
 改め射法の強弱と書し^一を矢のう矢と制
 し^一力と足^二力^一て矢^二教^一と教^二し^一功^二古^一首^二倍^一せ
 且^二汲^一南^二隊^一と号^一て家^二延^一結^二ふ^一南^二世^一の射と事
 とらる共大^二新^一系^二家^一延^二り^一指^二揮^一よ^二不^一依^二ハ^一り^二門^一射
 教百人の内言山公^二爲^一る意よ^二南^一道^二の^一徳と
 蓮華王院の堂と号^一て未^二始^一名^二登^一於^二是^一家^二延^一
 り矢強弱の理と考へ^一力^二微^一なり^二共^一の^二を^一矢とて

射^二ら^一と制^一して^二ま^一心^二よ^一換^二く^一ま^二心^一世^二ら^一と^二以^一く
 徳^二道^一華^二王^一院^二の^一堂^二と^一号^一し^二無^一双^二の^一名^二と^一均^二り^一事
 師^二大^一苑^二よ^一不^二能^一強^二亦^一し^二矢^一筋^二と^一矢^二と^一自然
 の^二妙^一と^二云^一終^二と^一以^二傳^一え^二難^一し^二門^一人^二を^一意^二敬^一怨^二天^一
 と^二と^一以^二心^一終^二と^一傳^二更^一ら^二共^一切^二と^一終^二は^一は^二不^一
 東^二此^一業^二に^一接^二ふ^一事^二右^一爲^二の^一家^二延^一又^二家^一延^二り^一家^二督^一と
 終^二く^一心^二科^一よ^二居^一住^二と^一幼^二稚^一の^二時^一より^二南^一道^二精
 熟^一し^二教^一以^二目^一に^二終^一不^二幸^一と^二十^一九^二業^一の^二時^一又^二
 喪^一と^二終^一と^二又^一存^二命^一乃^二同^一復^二理^一一^二技^一乃^二奥^一名
 と^二極^一め^二夫^一質^二を^一意^二よ^一わ^二ら^一れ^二と^一ら^二矢^一と^二制^一ら^二る

千載集卷三

十九

事父祖優者勿不言の妙と然感一郡民
 又復^キせし道と守方^ニ道^ヲ守^ルとして母新の功と勵
 す才子凡數百千人その中以道華主流の堂
 あり毎夫と修練する者又百愛百中の妙と
 ゆる者あり夫と制一強と引去夫米と福
 練する者石の務斗不可授与の幣十人許可
 の族及百人^ニ當時道華主流の堂屋橋漸
 奮^ニ及大敗京尹板倉防兵大守^ニ
 物命改葬わりの最慈元年嘗功^ニ成^ル此^ノ時
 射形^ニ去^リつる者個系郡牧の家臣等^ニ洛小^ニ事

去して射初とらむに嘗百人斗京尹未許容
 爰よ忠^ニ盛^ル京尹の亭^ニ候^テ祈^テ曰我父祖の
 志と継^ヒ業と事^トとらるる幸と^ハ射^ハ射初^ハ先
 許と慕らんとき京尹許^テ曰彼ら父祖射初
 の功人皆^ニ不知也^ト別^テ勅^シと命^ヲわり^テ家^ノ世^ノ業^ヲ
 乞^フ取^ル慈元年癸巳臘月七日每戒一^ノ家^ノ族^ノ門
 才とお卒て堂よかり白羽の矢二筋^ヲ交^ス
 至^リ行^キ松^ノ敷^ノ地^ニと^リて^キ修^メ修^メ集^メ一^ノ名^ノ者
 塔^ノ塔^ノの如^ク一^ノ因^ニ是^ノ京^ノ尹^ノ上^ニ堂^ニを^シせ^ルは^シ後^ニ是
 以後堂^ニを^シせ^ル者^ハ不^レ得^ル也^ト至^リ頃^ニ矢^ノ教^ヲ射^ル者

お教より聖朝及び兵中かりを統矢先と然
と家塾工更しかりかきかき進へ矢先とく
かやうと大なれい権をして大災あやうと
事とちりい門人水北と松尾の矢教の内地を誰
ゆ事とみと尺中松尾と松尾と是より後人皆
用とくた右の標射法の事後世の一助と云工
史と教と不知家傳と詳なり

片岡助十郎家清

片岡助十郎家清者平右衛門家延二男也與兄家
盛共盡心於射術後爲吉田元近茂武之督又從吉

田大藏茂氏勵精心終至絕妙射於蓮華王院二度
發射名於諸州學其工夫者若干人世稱之山科派
又有下河原平太夫一益者學家清傳於伴滿定悟
其妙旨貫草的中共得之又諸流與旨無不究盡至
微而得至精者耶

弓ハ武藝乃長シ進ヘ姓若クハ爲士若クハ術ヲ
學ハシラハカシク我トモミ妙旨と究メ貫草的
中ニ入ルニ至ルハシク切ト下河原一益ト云カ人
貞國也して初雅より始好ミ職ヲ檢の術と
稱ル物トモミ爲事弓道ニわり山科流と